

第102回全国高等学校野球選手権大会開催中止にあたって

朝日新聞社
社長 渡辺 雅 隆

全国の球児のみなさん、晴れの大会を目指してきたみなさんの夢を絶ってしまうことになり、無念でなりません。球児を支えてこられたご家族、監督や学校関係者、そして球場での熱戦を心待ちにされていた高校野球ファンのみなさまの期待にお応えできなくなったことについても、心苦しく、残念に思います。選手や関係者の安全を最優先に考えたうえでの結論です。ご理解ください。

感染拡大防止の取り組みは長期化しています。春の選抜高校野球大会が中止になっただけでなく、各地の学校で休校や部活動の停止が続き、多くの球児は練習すらできない状況です。緊急事態宣言が解除された地域などで学校や社会、経済の活動を再開する動きが見られる一方で、なお休校や外出の自粛が続く地域もあり、さらには感染の第2波、第3波への警戒の必要性を指摘する専門家もいらっしゃいます。

そうしたなかで、高校野球生活最後の夏を迎える3年生のためにも、集大成の場となる試合の機会をなんとか設けることができないか、ぎりぎりまで検討して参りました。しかし、地方大会に続いて甲子園の全日程を考えると、大会期間は6月下旬から8月下旬まで2カ月に及びます。この間、たとえ無観客での実施を考えても、移動や宿泊を含め、大勢の関係者が運営に携わることになります。選手はもちろん、すべてのみなさまの安全に万全を期することは極めて難しいとの判断に至りました。

第102回大会は中止となりましたが、高校野球はこれからも続きます。夢の舞台を目指して続けてきた努力は、これからの人生を生きていくうえで大きな力になると思います。晴れて練習、試合ができる状況が訪れた際には、高校野球ファンのみなさまにはこれまでと変わらぬご声援をお願いします。

各地で今年の部活動の集大成の場をつくりたい、という動きもあります。私たちも思いは同じです。朝日新聞社は日本高校野球連盟とともに、引き続き、高校野球を支え、野球に取り組む選手たちの夢とともに歩を進めてまいります。

令和2年5月20日